

同時資料配布先：
経済産業記者会
学研都市記者クラブ

2019年2月13日

公益財団法人 地球環境産業技術研究機構

米国ワシントンにおける
二酸化炭素回収・利用・貯留（CCUS*¹）に関する
円卓会議の開催について

当機構は米国のシンクタンク C2ES*² とともに、米国ワシントンにおいて、現地時間の2月13日、14日に二酸化炭素回収・利用・貯留に関する円卓会議を開催します。この会議には、12か国*³の政府、企業、NGOなど45機関の代表が参加し、日本で本年6月に開催されるG20に向けて、二酸化炭素の回収・利用・貯留（CCUS）に係る国際協力を強化するための具体案について議論します。

■開催概要

本会議には、12カ国の各国政府、国際開発金融機関、エネルギー・金融両セクターの主要企業、シンクタンク、NGOの代表者が参加し、これまでの国際協力から得られた知見や長期的なエネルギー・気候変動戦略におけるCCUSの役割、政策、資金調達、技術などについて議論します。また、2019年6月28日・29日に大阪で開催されるG20サミットにおいて国際協力を強化するための提案が検討されます。本会議の議論や提言を踏まえて、3月に報告書が取り纏められる予定です。

日時	2019年2月13日（水）～14日（木）
会場	ロナルド・レーガン記念ビル&国際貿易センター (米国ワシントンDC)
主催	公益財団法人 地球環境産業技術研究機構（RITE） 気候エネルギーソリューションセンター（C2ES）
委託元	経済産業省
協力	炭素隔離リーダーシップフォーラム（CSLF） クリーンエネルギー大臣会合（CEM）CCUSイニシアチブ
参加者	約70名

■主催者のコメント

・主催者 本庄孝志 RITE 専務理事

「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が公表した 1.5℃特別報告書は、CCUS の世界的な普及が急を要していることを改めて示している。既存の CCUS 技術の普及を加速するとともに、コストとリスクの低減のために CCUS の次世代技術の研究開発を継続することが重要である。」

・主催者 ボブ・パーシアセペ C2ES 代表

「米国は、超党派の強力な支援を受けて CCUS 技術の世界的なリーダーとなった。これは長期的な気候変動目標の達成に向けて重要である。我々は、これまでの成功例を足掛かりとして、イノベーションと普及を加速するために一致団結するように各国政府に働きかけている。」

*1) CCUS : Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage (二酸化炭素の回収・利用・貯留)。石炭火力やガス火力のほか、鉄鋼やセメント製造、ガス精製、石油精製などの産業プラントに適用することができる。CCUS には、大気中の二酸化炭素の回収、回収した二酸化炭素の有益な材料や燃料への転換などの様々な技術が含まれる。現在、世界で 18 件の大規模な CCUS プロジェクトが稼働している。

*2) C2ES : Center for Climate and Energy Solutions (気候エネルギーソリューションセンター)。気候変動に対する実用的なソリューションの創出に取り組む独立系、無党派、非営利の米国シンクタンク。米国で CCUS 技術の商用利用を推進する炭素回収連合 (Carbon Capture Coalition) の共同主宰者。

*3) 12 カ国 : 日本、オーストラリア、カナダ、フランス、ドイツ、インドネシア、イタリア、韓国、ノルウェー、サウジアラビア、イギリス、アメリカ。

お問い合わせ先 :

公益財団法人 地球環境産業技術研究機構

企画調査グループ 広報・産業連携チーム 中村、辰巳

TEL:0774-75-2301 FAX:0774-75-2314 E-mail:pub_rite@rite.or.jp